



▲ 6か月間で書道や生け花のほか、三線や琉球舞踊などの沖縄の文化研修も行いました。



ができ、とても勉強になりました。
この研修で、たくさんの経験や良い思い出が残りました。沖縄に来る前は、沖縄のことをよく知らず、ウチナーンチとしてのアイデンティティも余りありませんでした。今では、沖縄のことがとても大好きになり、ブラジルに帰った後は、ここで出会った友達、浦添市のこと、そしてお父さんやお母さんのように

私の面倒を見てくれた皆さんを思い出して寂しくなると言います。沖縄の皆さんは、私が最初に来た時からずっと優しく、これがイチヤリバチヨーデーの心だと感じました。この感謝の気持ちを表せる言葉が見つかりません。これは、「さよなら」ではありません。私は、必ず沖縄に戻ってきます。どうもありがとうございました。

親富祖 秀美 ダニエラ

18年間の人生の中で、この6か月間はとても重要でした。私がこれからどうなるのか、私の将来を方向づけたからです。この研修を通して、私は今、自分が将来何をしたいかが分かりました。それは、日本語の先生になって、生徒に日本語を教えたり、通訳の仕事をしたりすることです。



の日本語が伝わるか心配でした。けれども、笑顔で大きい声で話すようにすると、だんだん慣れてきて、日本語でたくさんコミュニケーションをとることができました。三線を弾いたり、琉舞を踊ったり、沖縄で学んだことを企業訪問でも披露することができて、とてもよかったです。

この研修は、私の人生の中でも大きなステップでした。国外に出て、一人で生活することは初めてでした。でも、愛情を込めて受入れてくれた人たちのお陰で、本当に良い経験になって、たくさん成長することができました。



▲前田エイサーの道ジュネーに参加しました。



親富祖 秀美 ダニエラ
祖父（前田出身）
ブラジル連邦共和国 3世



米須 亜由美 シンディ
祖母（城間出身）
ブラジル連邦共和国 3世



南米移住者子弟研修生受入事業とは、南米に移住した浦添出身者子弟の中から優秀な人材を選抜し、県内で日本語や沖縄の文化等の研修を受けながら、沖縄に対する理解を深め、帰国後は本市と母国との架け橋として、国際親善を図ることを目的に行われています。
6月から12月までの半年間、浦添市で研修を受けたブラジルからの南米移住者子弟研修生の修了式および送別会が、12月5日に市役所で行われました。

送別会で研修生の二人は、親戚や講師の先生方、企業訪問受入先、友人、市関係者らが見守るなか、堂々と三線や琉球舞踊研修の成果を披露しました。また、書道や生け花の作品展示も行われました。市長からは「ブラジルに戻ってからもお世話になった方々への感謝を忘れず、それぞれの夢に向かって頑張ってください」と、激励の言葉が贈られました。



この研修は、私を成長させました。沖縄に来る前は、将来何をするかはっきり分かりませんでした。でも、沖縄での研修や企業訪問を通して、将来の目標を見つけました。文化研修では、三線や琉舞、書道、そして生け花を習いました。どれも初めて学ぶものでした。

書道は特に難しかったです。始めは、基本的な縦や横の線も書けませんでした。後から手が慣れてきて、作品を書くことができました。今では「浦添」と書くことができます。ブラジルで三線の民謡を聞いたとき、私の中のウチナーンチの血が目覚めたと思います。ですから、沖縄で三線を習うことができたとき、とてもうれしかったです。三線の皆さんはとても優しく、色々教えてくれました。